

I. 平成20年度実施計画書について

1. 国際科学技術コンテスト名称

ロボカップ2008蘇州世界大会 ジュニア部門

2. 国内大会名称

ロボカップジャパンオープン2008 沼津 ジュニア部門

各ブロック大会(2次予選)、各ノード大会(1次予選)

3. 実施体制

(大会運営組織の体制・委員会組織図、実施団体との関係) 添付別紙参照

(主催) ロボカップジャパンオープン 2008 沼津開催委員会 (沼津市、特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会から構成

各大会実行委員会

(共催) 社団法人人工知能学会、社団法人日本ロボット学会

社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門

(後援) 文部科学省(予定)、経済産業省(予定)、静岡県、社団法人日本経済団体連合会、社団法人日本ロボット工業会、財団法人静岡県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送、朝日新聞静岡総局、毎日新聞沼津支局、読売新聞静岡支局、中日新聞東海本社、沼津朝日新聞社、NHK静岡放送局、テレビ静岡、あさひテレビ、静岡第一テレビ、エフエムぬまづ(予定)

4. 主任者

特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会

会長 松原 仁

5. 国際科学技術コンテストの概要

主催 The RoboCup Federation、各大会開催委員会

趣旨 14歳以下のプライマリと18歳までのセカンダリに分類される。自律型ロボットを各自考案・作成し、サッカー・レスキュー・ダンスの3部門のいずれかに参加する。ジャパンオープン、世界大会では他のチームと組んでスーパーチームという大きな集合を形成させ、コミュニケーション能力や協調性を育む。

回数 年1回

参加国数 23カ国・地域

全参加者数(平成19年度実績) 142チーム

大会実施内容等 ロボカップは、ジュニア部門(小学3年生程度以上18歳まで)からシニア部門(世界のトップクラスのロボット学者・大企業・大学が参加)まで同時に開催される唯一の科学技術コンテストである。RoboCupSoccer、RoboCupRescue、RoboCupJuniorの3つのドメインから成り、Humanoid型やSimulation型など最先端のロボットによるリーグがある。

RoboCup2007Suzhou については、<http://robocup-cn.org/> を参照ください。

6. 国際科学技術コンテスト参加の目的

現在から近未来において、非常に高い需要が見込まれ部品をたくさん取り扱うロボットは、ものづくりの象徴となっている。教育的には、情報・電子技術・機械工学など多岐にわたる技術や数学・物理を学べるすぐれた教材である。これらを用いて、次世代を担う人材の発掘と育成を目指す。

7. 国際科学技術コンテストに向けた実施内容

(1) 国際大会（ロボカップ 2008 蘇州世界大会・ジュニア部門）への派遣

(2) 世界大会参加者への事前研修

マルチチームやウェルカムパーティでの英語によるコミュニケーションのとり方や海外での注意事項、治安状態などのガイダンス

(3) 次年度への強化選手合宿

全国から熱意のある選手を集め、世界大会出場のロボット技術やコミュニケーション力を養成する。

(4) 次年度開催国への役員派遣

世界大会開催地についての情報を収集する。

(5) 国内代表予選（ロボカップ 2008 沼津ジュニア部門）の開催

(6) 事前選抜大会（ブロック大会、ノード大会）の開催

ブロック・ノード数を増加し、より多くの生徒児童に科学教育の機会を与える。

(7) 審判講習会の開催

指導者の育成を目指す。審判講習様の DVD も作成

(8) 普及体験教室の開催

より多くの児童生徒・保護者・教育者が参加できるように各地で行う。

世界大会の様子などを記録した普及用 DVD も作成

(9) 教材作成

審判用・指導者用 DVD の作成、新年度ルールの翻訳

(10) 広報の充実

チラシの作成・配布、HP の充実により、アクセスの悪い地域の生徒児童にも情報を提供する。申し込みも HP を活用し、地域格差をなくす。e-learning による技術指導も実施準備を開始する。

8. 国際科学技術コンテストに対する参加活動

(1) 国際科学技術コンテストへの参加

① 我が国からの国際科学技術コンテスト参加者数

平成 20 年度に予定している国際科学技術コンテストの参加者数 18 チーム 48 人

役員数 5 人

引率者数 4 人

② 国際科学技術コンテスト参加生徒選考方法

(実施内容、審査方法)

応募方法：ネットまたは Fax

対象：小学生・中学生・高校生

第一次選考（ノード大会） 1622 名（743 チーム）参加（平成 18 年度）
全国 36 会場 約 600 名選抜 サッカー中心
2008 年 3 月より 4 月

第二次選考（ブロック大会）全国 10 ブロック会場 107 チーム選抜
サッカー、ダンス、レスキューチャレンジ実施

代表選抜（ロボカップジャパンオープン） 18 チーム選抜

審査方法

サッカー：5 チーム単位のリーグ戦を行い、勝ち点方式で上位 2 チームが決勝トーナメントへ進む。FIFA ワールドカップと同じ方式。各コートに主審と副審がついて審判する。

レスキュー：災害現場を模したフィールドで、いかに早く被災者を表す人型を発見できるかを競う。競技タイムと審判による障害物回避の得点で競う。

ダンス：最初にインタビューを行ってロボットの性能や企画内容をチェックする。パフォーマンスは 5 人の審査員が企画や振り付け、衣装、音楽などの項目ごとに得点をつける。

③ 大会開催地

平成 20 年度の大会開催地 中国 蘇州

④ 日程

平成 20 年度の国際大会開催日程

2008 年 7 月 14 日—20 日 うち、ジュニア部門の日程 3 月 10 日現在未定

(2) 国際科学技術コンテスト参加に向けた研修等学習の実施

(ア) 世界大会参加者研修の実施

実施時期	6 月 1 日、7 日、8 日、15 日（予定）
実施会場	東京、名古屋、大阪、福岡
参加者数	世界大会出場者 18 チーム
実施のねらい	海外での常識と外国の人とのコミュニケーションのための語学研修。具体的には、電源や通貨、習慣、パーティ、試合やパドックなどケーススタディの形で実施。特にサッカー・レスキューは他国のチームとスーパーチームを形成し、協調性とチームワークを重んじる。こういう場で生きたコミュニケーション能力を研鑽するために、語学を中心とした実践的な研修を行う。
実施内容	英語講座 2.5 時間

	ガイダンス 2.5 時間
実施体制	ロボカップジュニア運営委員および英語講師

② 強化合宿の実施

実施時期	8 月 24 日 - 26 日 (予定)
実施会場	国立女性教育会館 (予定)
参加者数	生徒児童 50 名
実施のねらい	次期国際大会のために強化選手を全国から 50 名募り、技術など本格的な指導を行う。また、開催地区のブロックに属するノードレベルの子どもたちにも、世界大会出場者との交流を行い、モチベーションアップを図る。
実施内容	世界大会出場者との懇談、技術的指導、コミュニケーション能力の育成、簡単な英会話など
実施体制	ロボカップジュニア運営委員会、各ブロック長、技術指導員

9. 国際科学技術コンテストに対する国内選抜大会活動

(1) 国内選抜大会の実施

①国内選抜大会への参加者数

国内選抜大会への参加者数 107 チーム

大会役員数 5 人

会場責任者数 1 人

② 国内選抜大会参加生徒選考方法

(実施内容、審査方法)

I. 応募方法：ネットまたは Fax

II. 対象：小学生・中学生・高校生

ロボカップジャパンオープン 2008 沼津：平成 20 年 5 月

ジュニア部門は 3 日から 5 日、各ブロック大会の結果から 107 チームを選抜

第一次選考（ノード大会）：2007 年 11 月より 2008 年 3 月

全国 36 会場 約 600 名選抜

サッカー中心

第二次選考（ブロック大会）：2008 年 3 月より 4 月

全国 10 ブロック 107 チーム選抜

サッカー、ダンス、レスキューチャレンジ実施

③ 大会開催地

沼津市 キラメッセぬまづ、沼津市民体育館

④ 日程

(a)国内選抜大会

2008 年 5 月 3 日より 5 日 ジャパンオープン 2008 沼津 107 チーム

2008 年 11 月より 2009 年 3 月 ジャパンオープン 2009 第一次選考（ノード大会）

参加者 3000名 全国50会場 サッカー中心
 2009年3月より4月 ジャパンオープン2009 第二次選考（ブロック大会）
 全国20ブロック110チーム選抜
 サッカー、ダンス、レスキューチャレンジ実施

(b)研修

(1)普及体験教室

2008年8月より2009年1月まで 全国10か所で開催
 日時・場所は未定
 参加者 400名程度

(2)審判講習会

2008年8月より2009年3月 全国14箇所 参加者60名程度

(2) 広報、普及活動について

①募集の告知方法

チラシを作成。全国科学館・教育委員会・SSH校に配布
 HPにて各種情報公開、申し込みも受け付ける。
 学びんピックHPなど他のHPよりリンク

②普及DVDや普及書（問題集など）、トレーニングシステム等の制作

世界大会普及および審判講習の目的でDVD作成。

③説明・解説会やイベント等の開催など

(i) 普及体験教室の実施

実施時期	8月—1月
実施会場	全国10ヶ所
参加者数	40名×10ヶ所=400名
実施のねらい	ロボカップジュニアの普及・地域スタッフの育成
実施内容	サッカー・レスキューのロボット製作、模擬試合 審判の現地練習
実施体制	ロボカップジュニア運営委員会、各ブロック運営委員会

(ii) 審判講習会の実施

実施時期	8月 - 3月
実施会場	全国14ヶ所
参加者数	60名程度
実施のねらい	指導者育成、新ブロック・ノード設立。 統一感のある公正な試合運営を目指す。
実施内容	DVDと実機を用いたケーススタディ
実施体制	ロボカップジュニア運営委員会、各ブロック運営委員会

10. 実施担当者名

(本件担当者) 役職 氏名 ジュニア渉外担当 北原 達正

住所 大津市大石東 3-11-15

電話番号 077-546-6034 (090-8384-7516)

FAX 番号 077-546-6034

E-mail kitahara@e-kagaku.com

1 1. 経理担当者名

音居あや、東ゆき 06-6376-2963 osaka@robocup.or.jp